

議 事 要 旨

会議名	第1回立川市保育のあり方検討委員会			
開催日時	令和3年10月15日(金)	19:00～21:00	開催場所	立川市役所210会議室
参 加 者	委員	米原委員(委員長)、上野委員、宮田委員(副委員長)、野村委員、土方委員、二瓶委員、加藤委員、飯野委員、村上委員、横塚委員、田中委員		
	市	三輪保育課長、江頭保育振興担当課長、大川保育指導支援係長、保育指導支援係池田		
議 題	1	子ども家庭部長あいさつ及び辞令伝達	6	今後のスケジュール
	2	委員の自己紹介並びに委員長及び副委員長の互選	7	その他
	3	全体的な検討の進め方について		
	4	資料の説明		
	5	事前アンケート調査結果等について		

内 容
1【子ども家庭部長あいさつ及び辞令伝達】 【子ども家庭部長】 本日はご出席の皆様には日頃から本市の事業にご理解ご協力をいただき大変感謝申し上げます。 また新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応においては、保健医療関係の皆様、それから保育施設・幼稚園の皆様が日々努力と工夫を重ねていただき、子どもたちの成長を守るためにご尽力いただいていることに重ねて感謝を申し上げます。 さて、今回の立川市保育のあり方検討委員会は、昨今の社会情勢の変化等に伴い、改めて市の保育をめぐる現状や今後の保育需要の見込等をご確認していただき、概ね今後10年程度を目安に、市のより良い保育の実現に向けたあり方を検討していただきたいと考え、設置したものである。 本委員会は、本を含め5回の予定でご議論いただき、最終的に提言という形で、立川市へご提出をお願いし、市ではいただいた提言を踏まえ、立川の子ども達の豊かな育ちに繋がるように、今後の施策を進めていく予定である。 委員の皆様にはどうぞ率直かつ活発にご意見をいただけるよう、重ねてお願いを申し上げ、開催の挨拶とさせていただきます。 (子ども家庭部長より市長の代理で委員へ辞令伝達) 2【委員の自己紹介並びに委員長及び副委員長の互選】 (事務局及び委員の自己紹介) (委員から委員長は米原委員が適任と推薦あり。米原委員了承。他委員から異議なし) (委員長の副委員長は事業者代表以外からの話を受け、宮田委員を推薦。他委員から異議なし)

3 【全体的な検討の進め方について】

【委員長】

初めに全体的な進め方について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

委員全体での総合的な考え方を提言としてまとめていただき、その中で個別のご意見等については提言の付帯意見等として別途記載することで、報告書として多くのご意見を盛り込んでいきたいと考える。

各回の委員会の進め方として、

第1回では、立川市の保育の現状などについて資料等を基に説明を行い、検討する項目や全体的な検討方針等についてご意見をいただく。

第2回、第3回では、第1回でいただいた意見を基に検討項目を決め、具体的な内容について検討、第4回では、提言案を概ね取りまとめ、文言修正や調整等を行い、まとめに入る。

第5回では、提言書案の内容を最終的に確認し、提言書としてまとめる。

以上のような流れを見込んでいる。

本日は検討項目として例示案を作成したので参考にさせていただきたい。

(当日配布資料1 検討項目例示案についての説明)

【委員長】

はじめに市の現状を委員会で共有し、課題だということを自由に話し合い、最終的には委員会全体の総合的な意見を提言としてまとめるが、話し合いの中で出てきた個々の意見についても、附帯意見として記載し、市長に提出するというのが大きな流れになる。

4 【資料の説明】

【委員長】

資料の説明について事務局からお願いします。

【事務局】

(事前送付資料1-1 認可保育所、認可外保育施設の定員と受入れ人数)

保育を必要とする子どもの受入れ施設などを表にしたもの。

4月1日現在の認可保育所と認可外保育施設の定員と実在園児数、受入れ人数の資料。

認証保育所については市から補助金を交付する関係上、受入れ人数を把握しているが、企業主導型保育事業所については把握していない。

(事前送付資料1-2 保育施設の定員と実施数、待機児童数)

保育施設等の定員や受入れ実施数、待機児童数等を表した資料。

令和3年度の待機児童数は26人となっており、平成22年度以降で最も少ない人数となっている。

(事前送付資料2 市内幼稚園の定員及び幼稚園に在園している児童数)

市内幼稚園の定員や実在園児数等を表している。

(事前送付資料3-1 保育の見込み量)

未就学児の人口推計は右肩下がり減少しているが、入所申請率見込みは

新型コロナウイルスの影響が少くなれば、また上昇するものと想定している。

(事前送付資料3-2 未就学の人口推計)

未就学児の人口については、0歳児の減少が長期総合計画上の推計値を大きく下回ることから、今回の検討会のため、令和3年度の0歳児人口等を基に独自に推計したものである。

(事前送付資料3-3 認可保育所等の入所申請児童数見込み)

令和3年度の0歳児、1歳児の入所申請率の減少は一時的なものと考え、令和4年度以降は、計画で見込んでいる申請率に戻るものと想定している。

内 容
(事前送付資料４－１に沿って第４次長期総合計画における人口推計の抜粋の説明) (事前送付資料４－２に沿って厚生労働省の地域の保育等に関する検討委員会の資料の説明) (当日配布資料２ 市内保育所、幼稚園一覧表についての提示) (当日配布資料３ 市内未就学児の保育所等や幼稚園への入園等の状況についての説明)
【委員】 待機児童数はどのように算定しているのか。
【事務局】 原則として国の基準を基に算定している。入所申請者数から受入可能定員を差し引いたものが待機児童にならないのは、地域によって、受け入れ可能定員に空きがあってもその地域の入所希望がないため等による。このため受入可能定員に空きがあっても待機児童が発生する場合がある。
【委員】 ４月は空きがあっても、年度が進むにつれて空きは埋まっていく状況だと思う。
【委員】 仕事に就けたら子どもを預けたい、というような潜在的ニーズを表現することは難しいと思うが、どうか。自分が考えていたより待機児童数が少なくて少し驚いている。
【事務局】 入所申請を行わないが、保育園に預けられたら預けたい、というような潜在的なニーズを数として把握するのは難しいが、現実としては一定数いるのではないかと考えている。
【委員】 ここ数年で待機児童に関わる社会環境は大きく変わってしまったと感じている。区部でも待機児童はほとんどいない、という所も出てきた。入所申請においては、保育を必要とする子どもから入所していく仕組みであることから、今はどうしても現在既に仕事をしている保護者の子どもが優先になってしまう。現状では全体の待機児童は減少してきているので、これからはより入所しやすくなっていくのではないと思うが、来年度以降、どのようになるかはまだわからないところも多いと感じている。 市は施設の適正な配置に努めており、全体としてはだんだんと良くなっていくのではないと思う。
【委員長】 今年は今までと違い、４月の入所数が少なかったという声が多く聞かれ、規模の小さな施設では、来年度以降も同じ傾向が続くのではないかと危機感を感じているところが多い。出生数の減少が進み、今後増加する見込みが立たないことから、国も各自治体も深刻に受け止めている。一方、保護者からすると保育園に入りやすくなったとも言える。
【委員】 出産・育児休暇等を利用し、仕事を続けたまま子どもを出産して０歳から入所申請すると入りやすいが、出産等を機会にいったん仕事を辞め、市外から市内へ転入した後、改めて仕事を始めるために保育園に入ろうとすると、その時点では保育の必要性が低いとされてしまい、入所がとても大変だと感じる。働き続けている母親も多いし、一度仕事を辞めてから、子どもを保育園等に預けて再度働きたい母親もたくさんいると思うので、そこがより良くならないのかな、と感じている。
【委員】

内 容

自分ももともと仕事をしていたが、出産のため、やむを得ずいったん退職した後、再度求職するため保育園を探していた時、やっと入園決定した園が家から遠くてあきらめたことがあった。働きたいけれど、求職中は入所の優先順位が低くて入るのが難しいと思っている人はたくさんいる。もちろん、現在働いている保護者が最優先であることは理解しているが、発達に課題のある子どもの育児はもちろん、子育てに行き詰ってしまう親もたくさんいるだろうから、保育園に入ることができないのであれば、代わりに、一時預かりであったり、短期的な入所等ができれば、仕事を探すことができたり、育児の悩みや疲れが解消できたりしていくのではないかなと思う。保育園は家で行う保育の代わりと市役所窓口で言われたが、それだけでなく、様々な事情がある保護者の受け皿であって欲しいと感じている。

【委員】

本人は働きたいにも関わらず、仕事を辞めざるを得ない状況は問題であると感じている。育児に行き詰まる母親や育てにくい子どもを抱えた母親に対して、ただ子どもを受入れているのではなく、1人ずつを大事にしていくコンセプトでいかなければならないと感じている。また近年は、家庭の事情等により、1日でも早く預かった方が良いようなケースを受け入れられるような、育児支援型の保育のニーズが高い。割と早期から育児のレスパイト等のための一時預かりのようなものをもっとあって良いのではないかなと感じている。

【委員長】

今年は待機児童数の減少があったが、一時預かり保育の利用状況はどうか。

【事務局】

一時預かり保育については、新型コロナウイルス感染症対策をしながら通常の園運営を行う必要があるため、不特定多数の方を園で受け入れることを避ける傾向が強く、保護者の側としても、一時預かり時の園での接触により、感染するのではないかと危惧していた様子が見られる
利用件数としては、子ども未来センターで実施している単独の一時預かり保育は通常どおり運営していたが、その他の認可保育所における一時預かりでは、普段預かっている子どもの保育を優先していたことから、昨年度と今年度の一時預かりの利用件数は大きく減少している。

【委員長】

定期利用的な預け方をする方が先に多く予約してしまうので、本来の一時預かりとしての申し込みがなかなかできない状況が長く続いていたのではないかなと思う。

【委員】

施設一覧を見ても、いろいろな新しい制度や仕組みができてきたので、市は、子育て応援ブック等を作成するなど工夫をしていると思うが、これらの施設を市民が利用しやすいように、さらに情報提供に努めていけば、入所希望者と受入施設のミスマッチ等が少しでも解消していくのではないかなと思う。施設を運営する側としても様々な努力をしているので、これからも続けていきたい。

【委員】

保護者委員の方のご意見を聞き、保護者の方の気持ちを、施設の運営等にどのようにつなげていくか、ということが非常に大事だと感じた。また、これから仕事を探す方や、仕事以外にも様々な活動を行っている方、テレワークなどの新しい働き方をされている方などに、まだまだ制度がついていないと思う。もちろん、子どもの健康や安全が第一であるが、今までの繰り返しにならないように、これからのことを考えていかなければならないと感じた。

【委員】

内 容

母親たちのニーズを日々感じているので、様々な母親のニーズ調査結果などをデータで出せると行政は動きやすいのではないか、と思う。

【委員】

保育所等で一時預かりを受ける場合に、実際には本当に保育が必要なのかどうか、難しいケースもある。施設としての受入体制等もあるので個別に相談等の上で受入れの可否を伝える事もあり、考えなければいけない点であると思う。

【委員】

それぞれの保護者のニーズを的確に捉えるのは難しい部分もあるかと思うが、保護者が必要な時に必要な保育ができるかぎり提供できるように、この機会にいろいろと話し合いながら、市の施策につなげていくことができれば良いと思う。

【委員長】

今回の保育のあり方検討委員会で話す内容として今までのお話は非常に大事だと思う。今までの保育施策は、主に女性の社会進出や労働力創出のために保育園で子どもを預かる、とされていたが、これから子どもの数が減少するにつれて、ある程度保育施設が充足してきたなら、親子だけではなく、社会全体で子育てを行う「協働養育」を行っていく、という方向になると思う。

保育園に子どもを預けたいから働くのではなく、子育てが孤立してきているから、親子だけの子育てでなく、社会みんなで子育てをすることが、保育なのではないか、という一つの提案ではないかと考える。

立川市として子育てをどう考えるのか。社会全体で保育を行うのであれば、無理な長時間の保育ではなく、短時間で預けて、そこで生まれた余裕をもってポジティブな子育てにつながればと考えていける、良い意見であったと思う。

5 【事前アンケート調査結果等について】

【委員長】

事前アンケートの調査結果について事務局から説明する。

【事務局】

つい先日ご回答いただいた法人様等がいたので、今回は暫定版となっている。第2回までにはすべての回答を集計した内容にする。また、自由記述欄については法人、施設から率直なご意見をいただいているのでご覧いただければと思う。

また、アンケートの中に回答が「課題がある」となっている場合でも、必ずしも園の運営がよくない状態という事ではなく、園として常に保育の質などを向上していかなければならない、と考えているためという場合があるので、「課題がある」という回答であるからといって保育の質に問題がある園であるということに直結するものではない。

事前送付資料5-3の2, 3ページの人員体制の集計について、この資料では集計がうまくいってなかったのが、アンケートの回答の追加と併せて次回までに集計する。

事前資料6-1~4に沿って「市立保育園民営化検証報告書」の資料を提示したので参考にしてほしい。

【委員】

その他の保育サービスで「無回答」が多くあるが、実際には行っている園が多いと感じる。

【委員長】

外部の講師等に委託している、という聞き方をしているので、実際に保育の中で読み書き等を行って

内 容

いる場合に回答に迷い、ここでの回答では「無回答」になっているのではないか。

【委員】

園を訪問して受けた実感と、ここの回答が一致しないので、これからの保育サービスの方向性について議論をしにくいと感じる。アンケートの回答と実態とをどれくらいすり合わせれば良いか迷っている。

【委員】

読み書きや外国語、計算等のその他の保育サービスの実施について、単に実施しているか否かであれば回答できるが、外部講師を招いているか、内部の人員で実施しているかの条件が入ると、園としては回答しにくいと思う。

【委員】

そもそも保育の事を聞くアンケートであるのに、読み書き・計算等のこと聞かれても質問の意図が分からず、無回答になっていることもあるのではないかと思う。保育所としては、これらのことを実施していても、あまり重きを置いていない、ということなのかもしれない。

【委員】

全園に対するアンケートであるが、無回答の部分をどのように考えれば良いか、迷うところである。トータルなサービスのイメージができると良い。立川市全体のイメージが少し捉えにくいと思った。

【事務局】

このアンケート項目の意図としては、園としてこれらのサービスをどのように実施しているか、またどのように考えているかを調査し、保護者がその他の保育サービスをどのくらい望んでいらっしゃるのかを把握したいというものであった。また、施設を問わず同じという幼児教育・保育の無償化の影響がどのように現場に表れているのかを把握したいためでもあった。しかしながら想像以上に無回答が多かったと感じている。

【委員】

これまでこういったデータを収集したことはなかったか。

【事務局】

今まで、これらの項目について市全体として園で実施されている内容や園としての考え方等を、まとめて集めることはなかった。

【委員】

これらのデータは、保護者が保育園や幼稚園に求めているものを把握するために、すごく大事だと思う。しっかりとしたデータを取ったほうが良いと考える。

【委員長】

本来、幼稚園教育要領や保育所保育指針では、読み書きや計算そのものを活動としては想定しておらず、生活の中で進めていこうとなっている。それに対して、別途個別に実施してほしいという保護者の気持ちがあることも理解できる。

今後の議論の中では、この項目についてやっている、やっていないという数字だけを取りだすのではなく、自由記述も参考にして、ご意見をいただいきたいと思う。

内 容
【委員】 保護者が、自身の子どもにとってどのような育ちの機会があるのかを知りたい、という立場を考えると、何らかの形で実態を把握したいと思う。 【委員長】 おっしゃる通り、保護者が園を選択していく中では必要なデータだと思うが、今回の検討委員会の中ではそこに絞ってしまうとデータの取扱いが少し心配である。 【委員】 保護者としては、習い事の情報も必要だと思うが、保育園に入所できなかった場合に、幼稚園等で実施されている一時預かりの人数や時間、長期休暇等も大事な情報だと考えている。市などでは既にまとまった情報があるものだと思っていた。 【委員長】 今でも市の窓口等には、ある程度の情報はあがるが、まとまった情報が必要であるご意見をいただいたが、今後は必要になってくると考える。 その他、本日、委員の皆さんがお感じになったことや疑問などは、次の会の前に事務局にお伝えいただいて、事務局は次回に向けて準備をすること。
6 【今後のスケジュール】 【委員長】 今後のスケジュールについて事務局から説明する。 【事務局】 (当日配布資料4 立川市保育のあり方検討委員会開催スケジュールの日程調整についての説明) 第4回の日程について日程変更の調整をお願いしたい。 候補日1月17日(月)、1月24日(月)のいずれも19:00から市役所の会議室となる。 【委員】 保護者委員のお子さんがあるご家庭の都合を考慮して19時より早く開始したほうが良いのではないかな。 【委員長】 終了時間を考えて18時半からの開始にしたいと思う。(他委員の同意あり) 【事務局】 第5回が2月10日なので、第4回は1月17日(月)はどうか。(他委員の同意あり) それでは第4回は1月17日(月)、第2回からの開催開始時間は18時30分からということにする。
7 【その他】 【委員長】 その他、事務局から何かあるかな。 【事務局】 配布資料の持ち運びが大変な場合、事務局で会議用の資料を準備するので、必要に応じて申し出てほしい。また、今後の委員会は新型コロナウイルスの関係で一部オンラインでの可能性もあるので、あらかじめご承知おき願いたい。また、委員の報酬については後日改めて連絡する。

内 容
【委員長】 今後も皆様のご意見を出していただいて今後につなげていければと思う。 委員の皆様、本日の委員会ご出席、大変お疲れ様でした。